

卒業論文の手引き

平成 27 年度(2015 年度)入学者用

福 島 大 学 人 間 発 達 文 化 学 類

~~~~~

# 卒業論文について

~~~~~

．まえがき

皆さんは、いま大学生活をちょうど半分終えて、後半期のスタート地点に立っていますが、勉学上のしっかりした目標を立てていますか？後半期のカリキュラムでは、より専門的で、かつ学生自身が主体的に関わるような教育形態が重視されています。なかでも卒業論文に取り組むことは、自らの学習課題を設定し、それぞれの学問のより専門的な領域の学習を行う最大の機会です。

主体的な学習課題の設定は、一朝一夕にできるものではありません。この「手引き」は、皆さんが、個々の教員の研究室の扉をノックする時点までに考えておかなければならないいくつかの留意点を示したものです。また、この「手引き」に盛り込まれている各教員の指導領域の説明は、必要最小限のものです。ひとつの手がかりにすぎませんが、よく読んで活用してください。

．卒業論文制度の趣旨と具体的な留意点

(イ) 卒業論文への取り組みは、皆さんの大学生活の総決算ともいえる重要な学習の機会です。本学類では、その成果に対して 4 単位を与え、卒業の必要条件としています。

先輩たちは、卒業論文を大学における学びのもっとも充実した機会として受けとめてきました。皆さんも是非、卒業論文は 4 単位という数字以上の重みをもつものとして受けとめてください。

(ロ) 人間発達文化学類の場合、学問分野が多様です。その上いくつかの分野にまたがることもあります。そのため、卒業論文はこういうものだと、一律に述べることはできません。ごく一般的な形でしか言えませんが、取り組むに当たっては、次のような点に留意しておく必要があります。

第一に、卒業論文は、指導教員の指導を受けることを前提としています。ですから、どの教員の指導を受けるかを決めることが重要になってきます。そのためには、教員がどういう専門分野の研究者なのか、どういう講義を行っていて、その教員のもとで、先輩がどんな論文を書いたかを知っておくことが必要です。また、自分が興味をもつテーマに近い分野の教員の授業をあらかじめ受けておくとか、インターネットで福島大学のホームページから各教員の業績を見ておくとか

いったことも大いに役立つでしょう。

福島大学のホームページアドレス <http://www.fukushima-u.ac.jp/>

第二に、論文の題目を決定することは、指導教員を決めるだけでなく、論文作成の土俵をすえるという、たいへん重要な意味をもっています。論文題目の提出締切は9月30日となっはいますが、それ以前の早い時期から研究室を訪ねて相談をしてほしいのです。その際、事前に一定の学習をしておけば、それだけ取り組みが具体的に進みます。

(八) 皆さんは、自分自身の問題意識(興味・関心)に基づいて論文題目を決めることとなりますが、決定に至る過程でいろいろと迷うこともあるでしょう。一人で悩まずに、授業で接している教員、学習クラスアドバイザーやカリキュラムアドバイザーの先生方に相談にのってもらいましょう。また、先輩や学友に相談にのってもらうこともよいでしょう。自ら積極的に行動することが何より大切です。締切日が迫ってからでは、教員によっては応ずる人数が多すぎて、十分に対応できない事態も生じます。遅くとも、5セメスターの7月頃までには、希望する指導教員の研究室を訪ねてください。

専攻によっては、ガイダンスを開催するところもありますので掲示等に留意してください。

(二) 指導教員が決まったら、皆さんは指導教員が開講する「卒業研究基礎演習」を3年の後期(6セメスター)に、さらに「卒業研究演習」「卒業研究演習」並びに「プレゼンテーション演習」を4年で受講しなければなりません。くれぐれも受講手続きを忘れないように注意してください(3~4頁参照)。卒業研究は、各学習クラスが開催する卒論発表会で審査を受けることとなります。所属する学習クラスまたは専攻以外の教員の指導のもとで卒業研究をする場合は、指導教員と学習クラスアドバイザーと相談のうえ、学生所属クラスと指導教員所属クラスのいずれかの卒論発表会に参加してください。

(ホ) 論文というものがどのようなものなのか、まったくイメージが湧かない、というような状態ではテーマの設定どころではありません。そうならないように、日ごろから教員と話し合ったり、典型的な論文に読みなれたりする必要があります。附属図書館には多数の論文や書籍が収蔵されています。ぜひ、活用してください。

卒業論文の提出までの諸手続きについて

「卒業論文（演奏や作品提出を含む）」を完成させ、卒業するためには、卒業研究科目を修得する必要があります。当該科目には、独立した五つの授業科目があり計 8 単位を修得することになります。これらの単位修得にあたっては、次の手続きが必要なので、手続きを怠ったために卒業延期となることのないように留意してください。

1. 卒業研究基礎演習（6 セメスター）

3 年次前期の定められた期日までに卒業論文指導教員を決定し、卒業論文指導教員届を提出したうえで、この科目の履修登録を行うこと。両方の手続きを経ないと単位修得ができず、4 年次の論文提出も認められない。

2. 卒業研究演習 ・ （7・8 セメスター）

演習 は 4 年次前期に、演習 は後期に履修登録をすること。

3. プレゼンテーション演習（8 セメスター）

4 年次後期に履修登録を行うこと。

4. 卒業論文（8 セメスター）

4 年次後期に履修登録をしなければならない。さらに、翌年 1 月の定められた期日までに「卒業論文提出届」を添えて、論文を事務担当窓口へ提出しなければならない。

なお、美術の作品制作については「卒業論文提出届」を事務担当窓口へ提出した上で、作品を指導教員へ提出することで卒業論文提出に替えることができる。また、音楽の演奏についても「卒業論文提出届」を事務担当窓口へ提出の上、指導教員の指示に基づき、演奏をもって卒業論文提出に替えることができる。

いずれの場合も、所定の手続きを怠った場合には、卒業論文を提出したとは認められないので留意すること。

5. 3 年次に提出の卒業論文指導教員に変更が生じた場合は、速やかに変更届を提出しなければならない。

6. 卒業論文作成要領

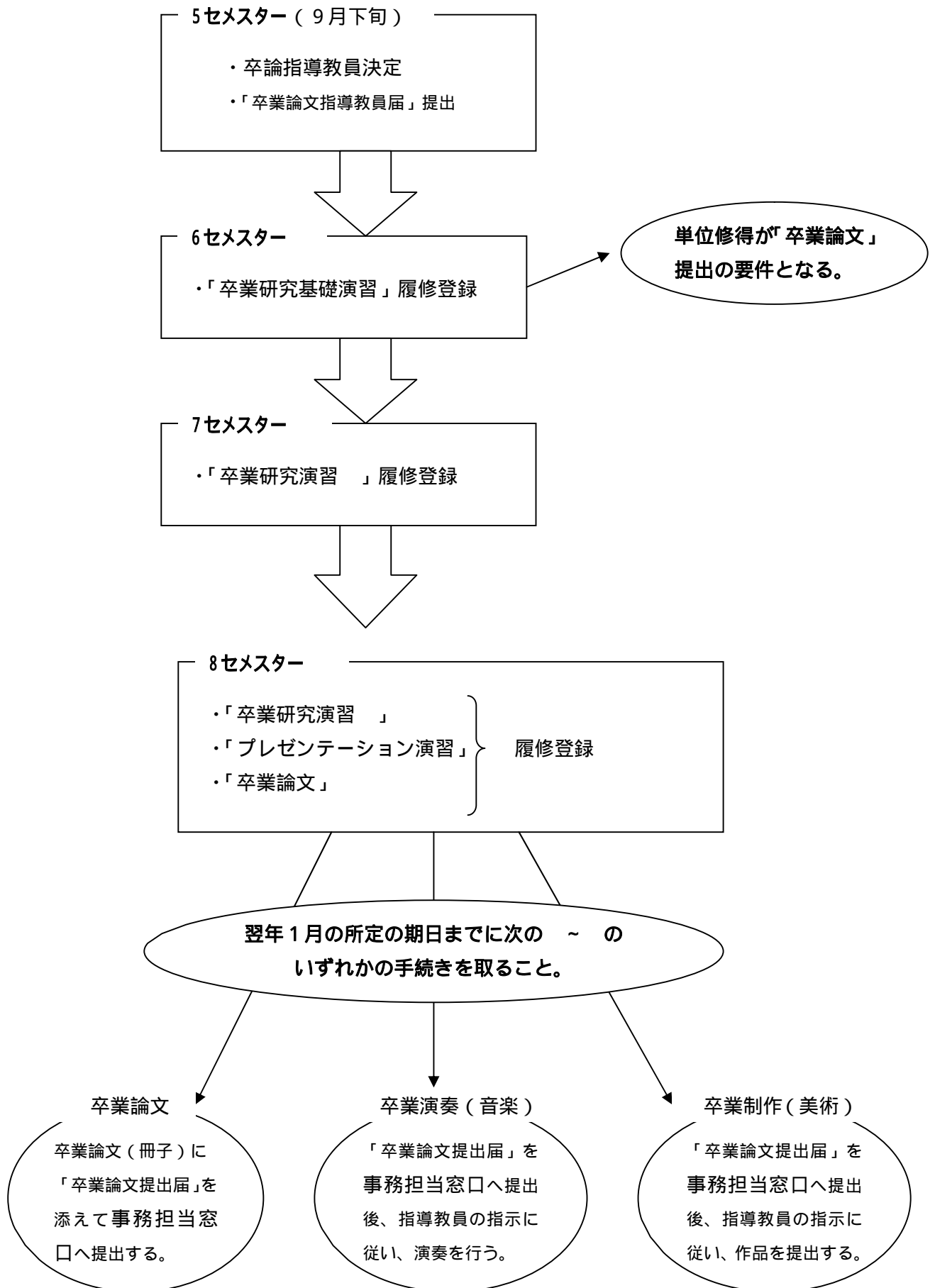
卒業論文は、ペン、ボールペン又はパソコン等の印字を用い、指導教員の指示により作成すること。鉛筆書きは認めない。

論文は、綴じたものとし、表紙には卒業論文題目、学籍番号、氏名、指導教員名を明記すること。

共同研究については、分担部分を目次等に明示すること。

その他、卒業論文に関する日程、手続き等については掲示により周知するので、見落としのないように留意すること。

卒業論文作成の手順



人 間 発 達 専 攻

指導教員名	指 導 領 域	学習クラス
菅 家 礼 子	体育科の授業に関する諸問題を中心に研究する。たとえば「体育科の本質を踏まえ、なおかつ時代の要請にも応えうる授業の考え方や授業づくりについて」「体育科における学びの成立とそのための教師の役割について」等。	学習支援
佐久間康之	英語の文字・音声言語情報の処理および理解のプロセス（リーディング及びリスニング）について、特に認知心理学の記憶モデルに基づき、幅広い年齢層（小学生から大学生）を対象に実証的基礎研究を行う。また、これらの知見を基に英語科教育及び小学校外国語活動における指導への応用を目指す。	学習支援
佐 藤 佐 敏	国語科教育における理論と方法を研究する。〈楽しく〉かつ〈学力を高める〉授業の在り方を探る。文献から様々な理論を学ぶと同時に現場の先生方の授業を拝見し、将来に活きる実践的研究を行う。	学習支援
嶋 英 治	○音楽科教育の意義・目的を通して、学校教育における音楽科の立場について研究する。○小・中学校における音楽科の授業について見直し、授業の構成や指導内容及び指導の工夫、教材、評価について研究する。	学習支援
鈴木裕美子	身体表現に関わる領域（幼稚園「表現」、小学校「表現運動」、中学校および高等学校「ダンス」）。学習過程、芸術、民俗芸能、健康作り、交流など、さまざまな場面における舞踊の現象を研究する。	学習支援
野 崎 修 司 (*)	理科教育の諸問題についての研究。例えば、理科教育の今日的課題を踏まえた指導法、教材等について研究する。	学習支援
浜 島 京 子	○家庭生活を中心とした子どもの生活実態及びそれらを踏まえた家庭科教育等、生活教育のあり方に関する検討、○家庭科に関する児童・生徒の学びの実態や授業・教材の検討などを行う。	学習支援
三 浦 浩 喜	美術教育の思想や教材論・指導論の研究。また、子ども論や学校論を手がかりに、教育現場における文化活動、学級づくりなどを中心に生活指導実践の理論・実践研究を行う。	学習支援
水 澤 玲 子	①植物を中心とした、生きもの同士の関わり合いに関する研究。 ②デジタル画像解析とDNA分析を併用した、植物の分類学的研究。 ③生態分野の教材開発。	学習支援
森 本 明	算数・数学における授業とカリキュラムの構成の研究。文献との出会い、そして小中高等学校の先生方や子どもたちとの出会いを大切にして、実践をふまえた教材の研究や授業過程の研究の基礎を学ぶ。	学習支援

*の付いている教員の卒論指導を希望する者は、クラスアドバイザー教員と相談すること。

指導教員名	指 導 領 域	学習クラス
阿内春生	教育行政学・学校経営論。国レベル、地方自治体レベルの教育政策、学校改革など。中央政府、地方政府の教育政策、及び学校経営の実践的課題を探究します。学校内外の教育を制度的、政策的に考える領域です。	教育探究
坂本篤史	教育方法学・授業論・教師論。子どもの学習と、それを支える教師の実践的知識や授業観、さらには教師自身の学習を主要な対象として、授業実践や授業研究会の記録といった具体的事実に基づいて分析を行う実証的研究。	教育探究
谷雅泰	教育学、とりわけ日本教育史。地域の人々が何を思いどのように小学校を立ち上げてきたのか、に興味を持っている。卒論テーマとしては、およそ教育学に関わる問題であれば、歴史と関わりのないテーマはないので、学生の興味・関心の所在により何でもかまわない。	教育探究
中田スウラ	社会教育学・教育社会学。地域社会の構造的変化を把握し、子どもを初めとする市民の豊かな成長を支援する社会教育施設研究をてがかりに、家庭・学校・社会教育の果たす機能とその連携をめぐる実践的・実証的研究。	教育探究
松下行則	第一は、「道徳」の授業論。道徳とは何かを常に探究しつつ、授業の理論と実践を研究する。第二に、子どもと教師との関係を視野に入れた不登校支援のあり方。あと、子どもの遊びや学童保育にも興味をもっている。	教育探究
飛田操	専門は実験社会心理学、グループ・ダイナミックス。具体的な研究テーマは以下のとおり。(1) 集団の問題解決や集団創造性、(2) 対人関係の形成・発展・崩壊の過程、(3) ヒューマンサービスの組織心理学。	人間科学
住吉チカ	認知心理学、臨床心理学。成人及び幼児のカテゴリ化機能や推論機能、及び統合失調症を主とする精神疾患患者の認知機能障害について研究を行っている。	人間科学
高谷理恵子	専門は発達心理学。特にヒトの初期発達に関する諸問題について研究している。乳幼児期における発達過程を行動観察等の手法を用いて研究し、乳幼児が運動を獲得していく過程や、発達過程に影響を与える要因について検討する。	人間科学
富永美佐子	青年心理学。青年期の発達に関するメカニズムとそれに関わる諸問題について研究する。したがって、進路選択・性役割・友人関係など子どもから大人になる過程に関わるテーマとその支援を探求する。	人間科学
五十嵐 敦	生涯を通じての職業と人間の多角的な関係について、心理学的な視点と方法からアプローチする。進路選択や職場適応問題、人材マネジメントなど広義のキャリア開発について取り上げる。調査や実験によるデータ収集と分析を踏まえて研究と論文作成を行う。	人間科学
木暮照正	研究領域は、主に成人を対象とした教育心理学で、成人発達・成人学習・成人教育を中心に研究。これらに関連した実験心理学、認知心理学、社会心理学、サイバー心理学（インターネット・ユーザの心理）、応用心理学的研究も範囲とする。	人間科学

*の付いている教員の卒論指導を希望する者は、クラスアドバイザー教員と相談すること。

指導教員名	指 導 領 域	学習クラス
大 宮 勇 雄	乳幼児期の教育・保育・子育て等に関する教育学的な面からの研究。特に実践を対象とした研究とともに、海外の動向や乳幼児にかかわる制度・政策も対象としている。	子育て支援
白 石 昌 子	幼児教育におけるさまざまな問題を指導の対象にするが、私自身の興味は以下のようなテーマにある。幼児教育における教育内容・方法の研究。乳幼児の音楽表現に関する研究。保育者の幼児への働きかけについての研究。乳幼児の遊びの研究。	子育て支援
西 内 裕 一	①幼児期・学童期・思春期・青年期における社会性および人間関係の発達について。②保育所・幼稚園・学校におけるシティズンシップ教育の内容と方法について。③メディアリテラシー教育の内容と方法について。	子育て支援
原 野 明 子	幼稚園や保育所において幼児は何を経験しているか。またその背景にある保育者の価値観やそれにもとづく環境構成の考え方などについて。主として、幼稚園や保育所でのフィールドワークをしながら研究をすすめる予定。	子育て支援
内田千代子	発達障害と若者のひきこもり、いじめ、自殺などの問題行動、虐待体験等に関する精神医学的、心理学的研究。病弱者障がい者支援とジェンダーの問題、性教育についての研究。子どもと大人のメンタルヘルス支援。	特別支援
高 橋 純 一	障害児教育に関する理論的・実証的研究。研究内容は、障害観の形成、障害理解教育、インクルーシブ教育システム、障害者就労など。研究手法は、実験法、質問紙調査法、観察法。	特別支援
鶴 卷 正 子	知的障害や発達障害のある子どもの心理特性に基づく応用行動分析学からの実践的研究（漢字やひらがな文字の読字・書字指導）と保護者支援に関する実践的研究。	特別支援
鈴 木 庸 裕	生活指導論。学校福祉論。学校・家庭・地域のつながりから考える子どもの発達支援。教育と社会福祉をつなぐスクールソーシャルワーク実践。障害や特別なニーズを持つ子どもへの地域生活支援のあり方。	

*の付いている教員の卒論指導を希望する者は、クラスアドバイザー教員と相談すること。

文化探究専攻

指導教員名	指 導 領 域	学習クラス
半 沢 康	主にフィールド言語学の手法を用いた日本語研究を対象とする。方言研究。現代日本語の音声の研究。日本語を対象とした社会言語学的研究など。卒業研究演習開始時までに関連する演習の単位を修得しておくこと。学生研究班（分野は問わない）で活動していることが望ましい。	言語文化
井 実 充 史	上代・中古文学の研究。古典教育の教材論。中世文学の研究についても相談に応ずる。なお、関連する演習を履修しておくこと。学生研究班（分野は問わない）で活動していることが望ましい。	言語文化
高 橋 由 貴	日本における明治期から現代までの文学・文化を対象とした研究。近代以降の散文および韻文だけでなく、演劇・映画・視覚映像といった文学事象についても、広い意味での言語芸術である限り対応する。関連する演習を修めておくこと。学生研究班（分野は問わない）で活動していることが望ましい。	言語文化
澁 澤 尚	漢文による文字・文学・思想・神話・諸文化を主とし、清代までの関係領域に対応する。また、漢字文化や漢文学全般、小・中・高等学校教育における漢字・漢文教育にも対応する。学生研究班（分野は問わない）で活動していることが望ましい。	言語文化
中 川 祐 治	日本語に関わる分野について担当することができる。具体的には、日本語の文法・語彙に関する歴史的な研究。また、日本語非母語話者に対する日本語教育に関わる分野についても担当可能。学生研究班（分野は問わない）で活動していることが望ましい。	言語文化
高 橋 正 人	国語科教育に関する指導方法についての研究を行うとともに、アクティブ・ラーニングを始めとする授業改善の方略や思考力・判断力・表現力の育成に関する実践的な研究を行っている。学生研究班（分野は問わない）で活動していることが望ましい。	言語文化
朝 賀 俊 彦	英語の仕組み、英語と日本語との違い、学習英文法などのテーマについて、言語の普遍的特徴を視野に入れながら、文の構造と意味の構造の分析を中心とした研究を行なう。	言語文化
飯 嶋 良 太	英米文学、特に北米の作家と作品を研究する。簡単な英語の副読本や絵本の多読から始め、徐々にレベルを上げ、学生の興味に応じて選んだ小説・詩・戯曲・評論・関連資料を原文で読み、論文にまとめる。	言語文化
川 田 潤	16、17世紀の作品（初期近代英文学）、理想的な公と個の関係をテーマとした作品（ユートピア文学）、別世界を夢見る作品（ファンタジー文学）などを題材として、ジェンダー、階級、人種など、文化的な背景も踏まえて研究する。	言語文化
佐 藤 元 樹	英語の言語現象・構文の研究。節や句の組み立て方と意味の数学・論理的側面（指示、含意、法性、否定、作用域等）について研究を行う。	言語文化
高 橋 優	ドイツの文学、文化、思想を扱う。18世紀末から19世紀初頭のを考察の対象にすることが多くなるが、卒論のテーマに関しては学生の興味に応じる。ドイツの文化、思想に関する科目やドイツ語科目を履修していることが望ましいが、必須ではない。	言語文化
高 木 修 一	外国語活動及び英語科教育に関わる諸問題について、理論的・実践的観点から解決法を模索する。リーディング及びテストに関する研究が主ではあるが、学生の興味に応じて、英語科教育における異文化理解、英語教材論、リスニング、スピーキング及びライティングといった研究についても担当可能である。	言語文化
高 田 英 和	主に19世紀末から20世紀初頭にいたる英文学作品（リアリズム小説、モダニズム小説、児童文学）について、その当時の社会・文化的状況（帝国主義、自由主義、ジェンダー／セクシュアリティなど）を踏まえて、研究する。	言語文化

*の付いている教員の卒論指導を希望する者は、クラスアドバイザー教員と相談すること。

指導教員名	指 導 領 域	学習クラス
小 松 賢 司	日本史学。日本列島の古代・中世・近世・近代を対象に、社会・政治・文化等に関わる特定のテーマを自身で設定し、古文書などの文献史料を用いて、歴史的事象を研究する。（注）「日本史史料講読」を必ず履修しておくこと。	地域生活文化
鍵和田 賢	西洋史学。ヨーロッパ諸地域（アメリカ含む）を対象に、歴史上の事象を取り上げ研究する。時代・テーマは各自の関心に応じて幅広く受けつける。ただし、研究を行うにあたって、外国語文献を最低でも論文1本以上使用することを条件とする。（注）「外国史史料講読」を必ず履修しておくこと。	地域生活文化
初澤 敏 生	「地域」にかかわる様々な人間活動を対象とした研究。地域の産業や経済、文化、社会、政策など、対象は限定しない。地理学を中心とするが、これらの地域現象は民俗学、経済学、社会学なども密接な関係があり、狭い学問分野には限定しない。地理教育も可。	地域生活文化
中 村 洋 介	自然地理学の諸分野並びに自然災害や防災に関わる研究。例えば、地域の自然環境や地震災害、火山災害、津波災害、気象災害、防災計画、活断層研究など。また、防災教育、環境教育、エネルギー教育、ジオパーク、グリーンツーリズムなど、人間社会と深くかかわる自然現象の研究にも対応する。	地域生活文化
小 島 彰	経済理論、日本経済論、地域経済論、経済教育論。これまで地域経済論関係の卒論が多い。この分野では地域および日本の商工業、農林水産業も含む。また、金融やスポーツビジネス、音楽・文化なども範囲内である。	地域生活文化
牧 田 実	ひろく社会学全般を受け入れる。たとえば、コミュニティとまちづくり、家族とジェンダー、情報と文化、学校と教育、若者とサブカルチャー、非行といじめなど、現代社会のあらゆる事象が社会学のテーマとなる。	地域生活文化
小野原雅夫	西洋近・現代倫理学。カントやミルなど特定の思想家の倫理思想を分析していくものか、あるいは、生命倫理学や平和論などの特定のテーマを研究していくもの。倫理教育や教育倫理に関する研究も受け付ける。	地域生活文化
鵜 沼 秀 雅 （ * ）	小・中学校社会科教育にかかる諸問題について研究。特に社会科教育実践上の課題と、地域に生きる人間のあり方を考える社会科や、地域素材の教材化の手法、実践上の課題等について研究を行う。	地域生活文化
千 葉 養 伍	食品成分の分析とその働きについて実験研究を行う。具体的には、糖質や食物繊維などの構造解析やそれらに関連した酵素の機能解析、食品の加工利用に有用な微生物の探索など、テーマに沿った実験を行い、その結果をもとに考察する。	地域生活文化
千 葉 桂 子	衣生活に関わる諸問題について研究する。特に、生活文化としての布・衣服・染織や衣生活教育・ものづくりの意義について検討する。また、衣服の着心地や適合性について検討する。	地域生活文化
阿 部 成 治 （ * ）	持続可能な社会をみざす立場から、住居とまちづくりに関する問題を扱う。具体的には、国勢調査等を活用して住居と世帯の関係を分析したり、住宅地や商業地のまちづくりを住民参加の観点から検討したりする。なお、ドイツのまちづくりについては、多数の資料を蓄積している。	地域生活文化
中 村 恵 子	調理・加工過程における食品の変化に関する調理科学的研究や、食教育に関する研究を行う。具体的には、農産物の加工・利用方法、オープン加熱調理、大学生を対象とした食育などである。	地域生活文化
角 間 陽 子	生活の質の向上と「自立・自律」と「共生」についての研究を、生活経営学および中学校・高校の家庭科教育の分野で行う。世代間交流が若年世代に及ぼす影響、幼老複合施設や高齢者の保育補助事業、男女共同参画社会、親子関係や家族観など。	地域生活文化

*の付いている教員の卒論指導を希望する者は、クラスアドバイザー教員と相談すること。

指導教員名	指 導 領 域	学習クラス
相原 義 弘	数論、表現論、代数幾何などから題材を選んで卒論指導を行う。	数理科学
栗原 秀 幸	学習者の認知から出発する数学教育の研究、及び情報社会の数学教育のあり方の研究（2017年度退職予定）。	数理科学
中田 文 憲	曲線と曲面、多様体の幾何学、トポロジーなどから題材を選び卒論指導を行う。	数理科学
和田 正 樹	測度論(ルベーグ積分)、確率論などから題材を選び卒論指導を行う	数理科学
平中 宏 典	理科教育学，教育工学，地質学に関わる領域とその複合領域（他領域との複合も含む）について研究する。研究に際しては各々のキャリアモデルに応じて，ICT活用，地域素材活用，教育実践分析などを取り入れながら進める。	数理科学
村上 正 義 (*)	初等・中等教育における物質領域を中心とした理科教育のあり方について，理論および実践上の問題点から研究を行う。	数理科学

*の付いている教員の卒論指導を希望する者は、クラスアドバイザー教員と相談すること。

ス ポ ー ツ ・ 芸 術 創 造 専 攻

指導教員名	指 導 領 域	学習クラス
小 川 宏	1, 体育・スポーツに関わる哲学的な研究。現在の体育やスポーツの様々な問題や考え方について、哲学的な視点から考える。2, 球技におけるゲーム分析的研究。ゲーム分析によってゲームの特徴を明らかにする。	スポーツ探求 生涯スポーツ
中 村 民 雄 (*)	日本人のスポーツ受容の仕方と伝統的な身体技法について、歴史的に研究する。	スポーツ探求 生涯スポーツ
工 藤 孝 幾 (*)	ここでは、スポーツや運動行動にどのような影響を及ぼすのだろうか。スポーツや運動を行うことによって、ここではどのような影響を受けるのだろうか。こういった問題を、主として心理学的研究手法を用いて説明する。	スポーツ探求 生涯スポーツ
杉 浦 弘 一	競技スポーツや運動をより良い条件で行うためのコンディショニング（プレコンディショニングやリコンディショニング、モニタリングやセルフモニタリングなど）について、特に疲労との関連性を中心に研究を進めている。また、運動・スポーツにまつわる身体的諸問題や運動と健康についても研究する。	スポーツ探求 生涯スポーツ
森 知 高 (*)	体育目的論、体育方法論を含む体育科教育に関する研究を行っている。	スポーツ探求 生涯スポーツ
川 本 和 久	陸上競技のトレーニングと技術論に関して、実際の競技者を指導しながら実践的研究を進めている。また、一般的な体力トレーニングの具体的な方法および、トレーニング構成に関して研究している。	スポーツ探求 生涯スポーツ
安 田 俊 広	運動中、身体のなかで何が起きているのか？運動成績を上げるためには、あるいは、加齢などによって生じる運動能力の低下を抑制するにはどのような方法があるのか？など運動中の身体機能の変化について研究する。	スポーツ探求 生涯スポーツ
蓮 沼 哲 哉	生涯スポーツの推進・スポーツと地域振興・スポーツとマスメディア・スポーツビジネス・総合型地域スポーツクラブ・スポーツ政策など、現代社会におけるスポーツの果たす役割に着目した調査・研究を行う。	スポーツ探求 生涯スポーツ

*の付いている教員の卒論指導を希望する者は、クラスアドバイザー教員と相談すること。

指導教員名	指 導 領 域	学習クラス
金谷昌治	鍵盤楽器以外の器楽全般に関わって、演奏・奏法・歴史また指導法についての研究をおこなう。教員自身は弦楽器の奏法と演奏、解釈と奏法、について特に興味を持っているが、卒業研究（演奏）にむけて上記の範囲で実技指導もおこなう。	芸術文化
横島 浩	古典音楽の作曲理論（和声学・対位法・形式様式学・音楽史）や現代作曲に関する思想と実作についての研究。指揮や演奏史についても研究対象とする。作曲を卒論とする学生によって構成されています。ゼミ主宰の作曲研究会を定期的に行い、作曲に関心がある方の参加も歓迎します。作品発表会を定期的に行い、作品についての討論も行っていきます。	芸術文化
中畑 淳	ピアノ作品を中心とした鍵盤楽器作品の演奏解釈研究を行っている。学生は個別の課題について、演奏技術向上および作品の芸術的内容の解釈についてより深く探求し、それらの成果は発表会で演奏して意見交換をしている。	芸術文化
杉田政夫	音楽科教育の理論的研究（歴史、哲学、カリキュラム、発達等）、実践的研究（教材開発、指導法、授業研究等）を主たる指導領域としている。またポピュラー音楽、音楽と社会・文化との関係、音楽療法にも関心を持っている。	芸術文化
今尾 滋	声楽分野における研究、即ち作品研究、作曲家研究、演奏法研究、声楽史研究、指導法研究など、声楽に関係するものであればすべての事柄についての研究を可とする。基本的に実技を主とし論文を従とするが、逆であっても特に支障はない。	芸術文化
渡邊晃一	作品制作（絵画、版表現、映像メディア、現代美術）、論文（制作学、身体論、絵画の授業実践等）、プロジェクト（芸術企画）による研究を主たる指導領域としている。学生は個別の課題に即して成果を発表し、意見交換をしている。	芸術文化
新井 浩	新井研究室では彫刻に関する研究を行っており、それに関連する卒業制作又は卒業論文が望ましい。具体的には彫刻の制作・技法に関する研究、公共空間への彫刻設置に関する研究、教育現場における彫刻教材の研究などである。	芸術文化
片野 一	工芸デザインの方法と作品制作。特に木材と金属による家具のデザインと製作や、今日の室内空間における調和的デザインの研究をするとともに、木材加工上の補助具の研究もする。	芸術文化
内藤良行	美術科教育の教育理念及び授業実践を主たる研究領域とする。造形活動による教育の特性について、指導と評価、育みたい学力と資質の観点から研究を行う。また、子どもの発達を造形的な視点で捉え、成長を支援するための学習メニューの開発と魅力的な授業展開について研究する。	芸術文化
加藤奈保子	美術史・美術理論にかかわる研究。おもに西洋美術史。	芸術文化

*の付いている教員の卒論指導を希望する者は、クラスアドバイザー教員と相談すること。

卒業論文に関する取扱要項

制定 平成17年2月23日

第1条 この要項は、福島大学人間発達文化学類規程第30条に基づき、卒業論文に関する必要な事項を定めるものとする。

第2条 学生は卒業論文を提出しなければならない。ただし特定の領域においては制作、演奏のいずれかをもって論文にかえることができる。卒業論文の作成に当たっては、1年6か月にわたり同一の指導教員の指導を受けなければならない。ただし関係委員会で必要と認められた場合には、この限りではない。

2 卒業論文の単位は4単位とする。

第3条 卒業論文を提出しようとする者は、まず、指導を受けることを希望する教員名と卒業論文題目を所定の用紙に記入の上、指導教員の承認を得て、卒業論文の提出を予定している年度の前年度の9月30日（土曜日に当たる時は翌々日、日曜日に当たる時は翌日）までに提出しなければならない。

2 卒業論文題目の提出後、指導教員の開講する卒業研究基礎演習（1単位）を受講しなければならない。

第4条 卒業論文の提出資格は、卒業研究基礎演習の単位を修得し、この単位を含め、90単位以上を修得した者に与えられる。

2 卒業論文の提出資格を得た者は、卒業論文を提出するまでに、指導教員が開講する卒業研究演習 及び同演習 並びにプレゼンテーション演習を受講しなければならない。

3 卒業論文の提出資格を得ていない者は、卒業論文を提出することはできない。

第5条 卒業論文は、提出する年度の1月31日（土曜日に当たる時は翌々日、日曜日に当たる時は翌日）までに卒業論文提出届を添えて提出しなければならない。ただし、卒業論文が不合格となった者または提出締切日までに卒業論文を提出できなかった者が、9月卒業を希望する場合は、8月31日（土曜日に当たる時は翌々日、日曜日に当たる時は翌日）までに提出しなければならない。

2 前条によらず第2条第1項にいう制作作品は指導教員に提出し、演奏は指導教員の指示する審査日に行われる演奏をもって論文を提出したものとするが、卒業論文提出届は別途事務担当窓口に出しなければならない。

第6条 卒業論文題目は、原則的に所属する専攻の専門分野に関するものでなければならない。ただし関係の委員会で必要と認められた場合には、この限りではない。

第7条 卒業論文の審査にあたっては、論文に関する口述試験をおこなうことがある。

附則

この要項は、平成17年4月1日から施行する。

平成 卒業論文提出届 教員控 年度	入学年度	年度
	学籍番号	
	氏名	
	専攻	人間発達 文化探究 スポーツ・芸術創造
	指導教員名	
	卒論題目	

切り離さないこと

平成 卒業論文提出届 事務担当控 年度	入学年度	年度
	学籍番号	
	氏名	
	専攻	人間発達 文化探究 スポーツ・芸術創造
	指導教員名	
	卒論題目	

切り離さないこと

平成 卒業論文提出届 学生控 年度	入学年度	年度
	学籍番号	
	氏名	
	専攻	人間発達 文化探究 スポーツ・芸術創造
	指導教員名	
	卒論題目	

上記卒業論文を受領しました。 事務担当窓口

※論文にこのカードを添えて(制作、演奏はカードのみ)提出期限までに、事務担当窓口へ提出すること。

平成 卒業論文指導教員届 教員控 年度	入学年度	年度
	学籍番号	
	氏名	
	専攻	人間発達 文化探究 スポーツ・芸術創造
	指導教員名	
	卒論題目	

切り離さないこと

平成 卒業論文指導教員届 事務担当控 年度	入学年度	年度
	学籍番号	
	氏名	
	専攻	人間発達 文化探究 スポーツ・芸術創造
	指導教員名	印
	卒論題目	

切り離さないこと

平成 卒業論文指導教員届 学生控 年度	入学年度	年度
	学籍番号	
	氏名	
	専攻	人間発達 文化探究 スポーツ・芸術創造
	指導教員名	
	卒論題目	

